

企業探訪

TOP INTERVIEW

前山倉庫株式会社

代表取締役社長 前山 諭 氏



株式会社筑波銀行
岩井支店 白澤 航洋

前山倉庫株式会社
営業部長 針谷 満 氏

前山倉庫株式会社
代表取締役社長 前山 諭 氏

前山倉庫株式会社
取締役経営管理部長 染谷 輝男 氏

筑波総研株式会社
代表取締役社長 木村 伊知郎

物流サービスの ベストソリューションを提供する

本 社：茨城県坂東市猫実 1537
本部事務所：茨城県坂東市神田山 1129
創 業：1974年11月5日
従 業 員 数：2023年3月末現在 244名（単体）
事 業 概 要：一般倉庫業、一般物品の包装加工業務、自動車運送取扱業務
自動車運送取扱業務、ヘリポート管理、運営事業、
産業廃棄物の収集・運搬事業、人材派遣業務・請負業務、
広域物資拠点施設、医療機器製造業（包装・表示・保管）
高度管理医療機器販売業、再生可能エネルギー事業

インタビュー日：2023年3月20日
〔聞き手：筑波総研(株) 代表取締役社長 木村伊知郎〕
取引支店：(株)筑波銀行 岩井支店

内陸倉庫の必要性にいち早く気付き、 他の企業より20年も前に3PLを実施

貴社の歴史と事業内容についてお聞かせください。

当社は、現在会長である私の父 前山健一が1974年11月に創業した総合物流会社です。父は、創業前、ドライブインやゴルフ練習場を経営しており、その際、利用客との会話から内陸倉庫が必要となる時代が訪れることを予測しました。そのためすぐに倉庫業の認可を取得、生まれ育った場所に倉庫を建てました。それが現在の坂東市猫実にある本社倉庫です。

荷物の受入予約もないまま倉庫を建ててしまったため、創業当初、父と一緒に当社を立ち上げた仲間4人と、寝食を共にしながら近隣工場を手あたり次第に訪ね歩き、営業する毎日を送っていました。また、当時は内陸倉庫が認知されてなかった時代であったことから、入庫から出庫まで、倉庫事業に関わることは何でも行おうとしていました。

物流全般の業務を第三者へ包括的に委託する3PL (Third Party Logistics) が日本で広まったのは1990年代の後半ですから、当社はそれよりも20年先駆けて3PLを実施した企業ということになります。

その後、毎日の営業が功を奏し、段々とお客様の荷物が入るようになり、1977年になると本格的に荷物が入庫するようになりました。そこで、茨城県のほか隣接する千葉県、埼玉県、栃木県の運送事業の免許を取得し、物流会社としての体制を整えました。

社会環境の変化に柔軟に対応しながら お客様と共に成長してきた50年企業

その後、1998年までに6つの倉庫を開設したほか、ヘリポートの運営・管理、産業廃棄物の収集・運搬等へも事業を拡げ、さらに、2003年に私、前山諭が社長に就任した後も、人材派遣、高度管理医療機器販売、再生可能エネルギー等、様々な事業を展開し続けてきました。そして創業から約50年が経過した現在は、16か所に倉庫を保有し、8つのグループ会社、500人超（グループ全体）の従業員を抱える総合物流企業へと成長しています。



これまでの歴史を語る前山社長



沓掛倉庫



石下倉庫



若林倉庫

「マエヤマスピリッツ」で お客様のどんなご要望にも対応

貴社がここまで業務範囲を拡大できた理由について
お聞かせください。

「お客様第一主義」を合言葉に、全社員が一丸となって業務に取り組んできたことが功を奏していると思っています。特に、当社には、お客様のご要望はとことん組み入れ、できるまで考え抜く「マエヤマスピリッツ」が根ざしているため、常に時代のニーズを先取りして、それぞれのお客様に合ったサービスを提供してきました。この「マエヤマスピリッツ」は、当社のロゴマークにも込められています。



ロゴマークの回りを囲む円は、荷物を運ぶ車の車輪をイメージし、角のない円満な人間関係を表しています。そして円の中には二つ並んだ倉庫の屋根をイメージしたMAEYAMAの頭文字「M」がありますが、これは三つの「人」という文字で形作られており「三人寄れば文殊の知恵」になぞらえ、仲間同士が力を合わせて不可能を可能にするという意思が込められています。

『まずは汗を出せ 汗の中から知恵を出せ それができぬ者は去れ』が創業者である父のことばです。

他社に対する優位性を確保するために貴社が行っている総合物流についてお聞かせください。

通常、他社ではパッケージ化された内容に合わせて請け負っているのだと思いますが、「マエヤマスピリッツ」が根ざしている当社では、お客様が来店したら採寸して、それに合う型紙を作って洋服を作る街の仕立て屋のように、お客様のご要望に合わせたオーダーメイドの内容で請け負っています。

物流はオーダーメイドであっても、基本的な流れは一緒ですので、川上から川下までトータルで設計することで、コストを下げるができます。



神田山倉庫に併設されている本部事務所内の様子

物流の重要性を考えた現実的な車両切替

SDGsへの取り組みについてお聞かせください。

太陽光発電、LED化はもちろん実施しています。一番大きなエネルギーを使用するトラックについてはもともと排ガス規制があったため、その延長で取り組んでいます。拠点は高速道路の近くに作り、走行距離を抑えています。また、クリーンディーゼル車両^{※1}への切り替えを進めています。

※1 ディーゼルエンジンが排出する窒素酸化物をアドブルー（高品位尿素水）を使用して水と窒素に分解して環境負荷を抑える車両。

フォークリフトについては、震災前はCO₂削減に向けて全ての車両をEV化する方向で動いていました。しかし、震災以降その方向性を見直し、現在は倉庫内での作業は極力EV車両、屋外での作業はエンジン車両を使用するという形をとっています。なぜかと言うと、震災時に停電となってしまったからです。全ての車両をEV車に切り替えてしまうと、停電時に使用できなくなるリスクがあります。災害時に物資を運ぶという重要な役割を担う当社では、ある程度エンジン車を残すこともやむを得ないことだと考えています。



青色が特徴の前山倉庫のトラック

東日本大震災での支援をきっかけに 緊急救援輸送に関する協定を締結

坂東市、常総市と災害時の緊急救援輸送に関する協定を締結されましたが、締結のいきさつや内容についてお聞かせください。

2011年の東日本大震災（以下、震災）において、その当時私が所属していた倉庫業青年経営者協議会では、宮城県内で倒壊を免れた倉庫を使って物資を保管し、近隣の避難所等へ配付していた会員のもとへ、全国から集めた支援物資を発送しました。その際、同協議会は東西に拠点を設けましたが、当社が「東」の拠点となったため、当社から大型トラックで物資をピストン輸送しました。

また、震災では、これとは別に、全国から寄せられた支援物資が被災地の物資集積拠点で滞留してしまい、被災者に円滑な物資供給がされない問題が発生しました。そのとき、改めて物流の大切さを実感し、今後、万が一災害が発生しても、緊急救援輸送が即座に行える仕組みが必要だと考えました。

当社にはヘリポート管理、運営事業部門もあり、多方面への物流が可能です。そこで、まずは震災時に物資の提供を受けた坂東市と2014年5月に「災害時等における緊急救援輸送に関する協定」を締結しました。また、当社の本部事務所近くに所在する「あすなろの里」を広域避難施設に指定している常総市とも同年9月に同協定を締結しました。

東日本豪雨時にはボランティア活動のほか ヘリポートの一部を貸与

「平成27年9月関東・東北豪雨」時の被災地支援についてお聞かせください。

常総市に、支援物資の保管場所として当社の倉庫を活用することを進言し、保管を実施しました。また、鬼怒川の決壊現場付近の清掃活動を行いました。さらに、清掃ボランティアの移動手段としてバスを提供しました。三妻地区の避難所には「パンの缶詰」を提供したほか、下妻ヘリポートの一部を自衛隊に貸与し、ヘリの離発着及び航空管制に利用していただきました。



下妻ヘリポート (写真提供：株式会社アルファアビエーション)

資格を取得し、医療関係の業務にも対応

医療機器や病院向けの物流等、特殊な物流業務も行われていますが、これについて教えてください。

当社は、薬機法上の営業許可（医療機器製造業・高度管理医療機器等販売業）を取得しているため、医療機器の配送に限らず、薬機法に対応した機器（手術関連製品、麻酔・呼吸器科製品）の保管・荷受・受入検査・製品検査・法定ラベル貼付・添付文書封入・包装・梱包の作業を行うことが可能です。

医療関係では、現在5社と契約していますが、一番大きな業務は、海外で生産した消費財を、日本の規格に合うようにラベルを付け替えたりパッキングし直して、病院等に配送することです。次に歯科医師が使用する器具等を保管して、必要に応じて出庫・配送すること、また、展示会の展示品を預かっておき、展示会の開催時に展示場に運ぶこと等です。そのほか最近では、ウイルス検査で使用する綿棒やワクチンを入れる保冷バッグ等、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）関係で使用する物品の業務が増加しました。



下妻ヘリポート (写真提供：株式会社アルファアビエーション)

医療関係だけで数千品目を保管・管理

医療関係の品数はどれくらいですか。

一括りで医療関係と言っていますが、契約しているそれぞれの会社でも様々なメーカーの様々な製品を扱っていますので、合計すると数千品目に上ります。

大学病院のカルテの 保管・管理・配送を請け負う

病院のカルテを保管されていると伺いました。カルテは個人情報の塊ですが、どのように管理しているのでしょうか。

ある大学病院と契約しており、電子カルテ移行前の紙カルテをお預かりしています。

カルテは法定で5年保管することになっており、その期間が過ぎると廃棄するため、毎年1年分の廃棄依頼があります。最近では患者さんと話しながら電子カルテを打ち込むお医者さんが多いと思いますが、年配のお医者さんはそうはいきませんし、地方の病院から紹介されて大学病院を訪れる患者さんは紙の資料を持ってくる場合が多いので、少しずつ減ってはいますが、現在も300坪の倉庫の棚がいっぱいになる量のカルテをお預かりしています。

カルテは個人の情報が記載された機密文書のため、厳しいセキュリティー体制で保管しています。倉庫内に入れる社員を3人に絞っており、私でさえ入れません。そして、大学病院から依頼があったカルテを倉庫の棚から抜き出し、週に1回届けています。カルテの配送にあたっては、作業員は病院へお届けするまでどこにも立ち寄れない規則にしています。

保存期限の過ぎたカルテは溶解して 個人情報の流出を防ぐ

どのように廃棄されているのでしょうか。

当社は製紙会社ともお取引があるため、カルテは、その製紙会社の炉の中で箱に入れたまま溶解しています。シュレッターでは飛散して情報が漏洩する可能性があるため、溶解するのが一番だと考えています。



いわい幸神平倉庫

縁故採用と女性の採用を強化する

労働人口が減少する中、どのように人材を確保されていますか。

人材確保は物流業界全体が頭を悩ませているところです。そのような中、今当社が力を入れているのは縁故採用です。必ずではありませんが、紹介での入社の方が定着率が上がると思っています。そこで紹介してくれた社員には謝礼金を出す紹介制度を作りました。

そのほか、地元高校の卒業生を5年連続で採用しています。毎年何人か職場見学に訪れるのですが、近年は「フォークリフトに乗りたい」「配送をしたい」という女性が増えてきており、今年4月からの新入社員にも女性がいます。これまでの物流業界は男性の職場というイメージが強かったと思いますが、機械化が進んで女性でも働きやすい環境になりました。配属は6か月間の研修で適性を判断し、会社側が決定しますが、ここ数年間の採用者の中で女性社員の退職はありません。そのため、今後は女性も積極的に採用していこうと考えています。もちろん男性も引き続き募集します。運転免許のない方でも支援制度があるので気にせず応募してほしいと思います。



いわい幸神平倉庫

倉庫の集約化で業務効率化を図り、お客様の需要に応えていく

今後についてお聞かせください。

茨城県内では震災以降、特に災害が少ないと言われている県央、県西、県南において企業進出が著しく増加しています。圏央道の4車線化も進んでおり、拍車がかかっています。当社の営業基盤においても坂東インター工業団地、フロンティアパーク坂東、その他の工業団地の開発が続々と計画されており、地元の物流企業としてお手伝いできる機会が広がると考えています。

このような状況下において当社は、現状分散している倉庫の集約化を目指しています。お客様の中には、お預かりするものが増えていく中で、製品が何か所かに分散してしまったケースもあり、当社とお客様双方に非効率な状態が生じています。集約化により人と物の集中を図ることは、配送の効率化にもつながるため、大きな効果が期待できます。もちろんSDGsにもつながります。既に坂東インターチェンジの近くに用地は取得済なので、新倉庫を建設し、現在対応できていない既存顧客のご要望に応えるだけでなく、新規顧客の拡大にもつなげていきたいと考えています。

また、新しいことにもチャレンジしていきます。将来的には、WMS^{*2}やRPA^{*3}を活用したシステムの開発を進めるとともにITやAI、ドローン等を活用した「人にやさしい物流」を進めたいと考えています。現時点では実際にドローンを使った業務はありませんが、ドローンの活用は省力化にもつながります。また、うまく活用すれば、物流だけでなく農業支援等も可能ではないかと思っています。まずは、ヘリポートの次の展開として、ドローンの教習などを検討しています。そのほか、メタバースと物流を組み合わせることで、ECのように物を売買して、物流センターから出庫する流れもできるのではないかと、メタバースの研究もはじめました。

※2 入荷・在庫・流通加工・帳票類の発行・出荷・棚卸等を効率化し、一元的に管理する倉庫管理システム。

※3 デスクワーク（主に定型作業）を、ルールエンジン（業務知識をルールベースとして蓄積し、高度な意思決定の自動化を実現するシステム）やAI等の技術を備えたソフトウェアのロボットが代行・自動化する概念。

一方で、多分野に広がった業務の見直しも図ります。会社の存続・発展は、健全な経営があってこそです。「マエヤマスピリッツ」でお客様のご要望に応えつつも、しっかりと収益を確保していきたいと考えています。



いわい幸神平倉庫

様々な変化が起きている時代の中で物流がビジネスのイノベーションを創る

貴社がゴールとして掲げる「SMART LOGISTICS INNOVATOR」とはどのようなものですか。

物流をめぐる環境は、労働力不足の深刻化、新型コロナによる社会環境・経済環境の変化、AIやIoT等の最新技術の進化等様々な変化が起きており、「機械化・自動化」や「デジタル化」ひいてはビジネスモデルの変革（物流DX）や働き方改革といった変革が求められています。

当社は、“物流がビジネスのイノベーションを創る”と確信しているため、今後もこのような課題に挑戦しつづけ、「物流を革新していく者」を目指していきます。

また、一般の方々にはわかりにくい物流^{ロジスティクス}※4について、もう少しわかりやすくスマートなイメージをもってもらえるよう、イノベートしていきたいと考えています。

※4 軍事用語の「兵站^{へいたん}」が語源。作戦を行う部隊の移動と支援を計画し、実施する活動を指す。物資の配給や整備、兵員の展開や衛生、施設の構築や維持などを含む。



いわい幸神平倉庫